対面授業

中国語科教育法Ⅱ（新カリ）

Methodology of Teaching Chinese II

ABE Saori
阿部　沙織

科目ナンバリング：UTL-2-201-25

■授業の目的及び到達目標

中国語教育に関する基礎的な事項を学ぶ。中国語教育の歴史、中国語教育の現状、教材研究、教材開発、学習辞典、授業の展開、テストと評価についてなど多岐にわたり概観し、考察していくことを目的とする。教育の理論と実践を備えたインストラクターになることを目標とする。

■授業計画

1 テキスト研究（１）
中国語の初級テキストを分析し、いくつかの問題点を整理し考察する。PC を利用した教材作りの方法も確認する。
2 テキスト研究（２）
中国語の音声教材を概観し、どのように開発したら良いのか考察する。音声確認ソフトなど、ICT や PC を利用する方法を理解する。
3 中国語辞書研究（１）
中国語の辞書に関し、各種市販の辞書を比較・分析し、その特徴について整理する。
4 中国語辞書研究（２）
中国語の辞書に関し、前回に得た知識に基づき、どの段階でどの辞書を使うべきか検討する。また、電子辞書や翻訳器など、機器による調査方法の利点欠点などを考察し、多角的に解決するためのツールを確認する。
5 言語教育と言語利用地域
日本で中国語と称する言語を話す国・地域、更にその特徴や違いについて学ぶ。
6 授業研究（１）
中国語の授業の導入部分に関し、どのような方法でどのような内容が効果的かを考察する。また、展開部分に関し、どのような内容を如何に配列するか、様々な方法を検討する。
7 授業研究（２）
中国語の授業に関し、練習方法に関し課の内容によってどのような方法を取り入れるべきか考察する。
8 授業研究（３）
実際に授業計画を考え、実践する。
9 評価について（１）
テストの作成に関し、例文作成、小テスト作成などを通し、テストの狙いとその適合性を考察する。
10 評価について（２）
テストの種類について、確認テスト、レベル分けテストなどをそれぞれ学ぶ。公的な検定試験（中国語検定試験やＨＳＫ漢語水平考試など）の特徴を確認する。
11 評価について（３）
テストをした結果、その内容を分析し、フィードバックを如何にするかについて考える。実際にテスト問題を作成し、学生同士でその問題を解き、問題点を探る。
12 模擬授業演習
授業計画の実践として、学生が実践を練習する。
13 テストとフィードバック
後期の授業がどの程度理解できたか、テストを実施する。フィードバックとしての解説を行う。

■授業の方法

毎回講義形式で行うが、一方的にならないようにする。各項目について確認後、意見をお互いに議論することで、その内容について理解や考え方を深めていく。適宜、担当を決めて発表を行う。

■予習・復習

予習として、約１時間、教科書を事前に読み込み授業に臨み、各項目の内容を理解した上で出席することが望ましい。復習として、約１時間、自分が受講している中国語の授業と学習した項目を照らし合わせ、問題点や改善点を積極的に探る。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

前期・後期の期末テスト（３０％）、授業中の各項目の発表（４０％）、前期後期のレポート点を（３０％）加味し、総合的に判断する。課題や発表の内容については、授業中に指示する。

■教科書・参考書

『中学校学習指導要領解説　外国語編』（文部科学省）
『中国語の教え方・学び方ー中国語科教育法概説ー』（輿水優著、日大文理学部叢書）

■関連する科目

総合中国語および必修科目、読解I・II、文法作文I・II、会話I・II、中国語学概論、中国語科教育法I